

藤田保健衛生大学 病院に建設支援

福祉産業建設



岡崎市民病院

8月10日 協議会開催

医療圏の救急搬送で、岡崎市民病院への集中を緩和し、体制充実の必要性から藤田保健衛生大学病院の建設を支援する。

Q 病床数と開業予定は。
A 病床400床で、開業は平成32年度予定。

Q 救急医療体制の充実でなぜ建設費の負担が必要に。
A 圏域内の医療施設整備が求められる中、救急医療に相当する部分での負担を検討中。

Q 大学病院へのアクセス道の整備は。

A 岡崎市域の整備は、市が主体となります。

Q こども発達センターの整備

岡崎市が整備を進めている施設の利用にあたっての覚書を締結。

Q 福祉の村の通所者数は。

A 7月末現在21人が通所。

Q 建設費と維持管理費は。

A 建設に25億円。維持に年間3億5000万円。

Q 町負担割合は、これから協議か。

A 整備運営経費は、今後岡崎市と協議し、事業協約を結ぶ。

■箕面市
子育てしやすい日本をめざす取組み
子育て応援宣言をし、つなぐ力を育て、子どもたちを真中に、地域の輪をつくらせ、各種事業の取組みがされている。

■鳴門市
がんばる商店街30選に選ばれた大道銀天街
組合員数33人で、3代目会長は女性。女性を含む若い経営者10人が、ボランティアの協力を得て商店街を盛りあげている。
100円商店街・事務イスレス・地元高校の駄菓子販売など、にぎわいを創出している。

■和泉市
駅周辺整備
都心となる駅周辺23haの市街地再生に取組む。地区内に商業・公益棟・駐車場棟・住居棟を配し、JR駅舎を橋上化し、各施設を自由通路でつなぎ、発展を象徴する地区に整備された。

■茨木市
安威川ダムビオトープ
ダム事業用地で水没することのない田んぼの再生を愛好会が取組む。
目的は、野生の多様な生き物が生息する場づくり。



だいでうぎんてんがいくみあい 大道銀天街組合（鳴門市）

『がんばる商店街』 などを視察

第11次 行政改革大綱（案）

総務教育



おいしい給食（荻谷小学校）

8月11日 協議会開催

平成27年度から始まる3年間の第11次行政改革大綱（案）がまとまった。

Q ごみ処理コストの低減策は。

A 岡崎・西尾・幸田で、ごみ処理広域化による処理施設新設の計画がある。

Q 歳出削減の主なものは。

A 防犯灯のLED化による電気代・維持管理費の低減など。

Q 人件費の削減などは。

A 企業・大学・金融機関との連携で、企業誘致による税収増を目指す。

学校給食用食器を変更

平成21年度から強化磁器製の食器を採用している。

平成26年度の食器破損率は、全体の7%で約100万円の経費負担が発生。

Q 破損の原因は。

A 食器が重たいため、小学校低学年で破損する傾向が見られる。

Q 他の自治体は。

A 重さが約半分、割れにくい樹脂製食器を、豊川市、碧南市などが採用。

Q 今後のすすめ方は。

A 来年度から順次変更。

特別委員会レポート

防災・減災対策 特別委員会

土砂災害 警戒区域拡大



放水訓練（自主防災会）

8月7日 協議会開催

新たに65箇所が土砂災害警戒区域に追加。

Q 住宅建築の許可は。

A 警戒区域に規制はない。

幸田町地域防災計画

風水害等対策と地震対策の2本柱があり、法令に従って関係機関が基本的事項を定めている。

Q 女性の防災リーダーへの参画は。

A 地域にお願いしたい。

総合防災訓練に緊急Wi-Fi展示や煙体験、県防航空隊偵察訓練が加わる

Q 偵察訓練とは。

A 県の防災航空隊ヘリによる幸田町上空からの映像を大型モニターに映す。

南部中に防災備蓄倉庫を設置

Q 来年度は北部中に予定。保育園への設置計画は。

A 現在考えていない。



幸田駅前町有地

幸田・三ヶ根駅前
整備特別委員会

幸田駅前事業
進捗率70・1%

8月6日 協議会開催

幸田駅前土地区画整理事業の進捗率は、事業ペースで70・1%。建物移転では88・6%。全部で79件の内、70件が終了。28年度にすべて完了予定。

JR線路側の交番、駐輪

場、公園用地は町有地。駅前ロータリーを含めての配置を計画していく。

Q JRとの協議は。

A 事業を具体的にすすめていく段階でおこなう。

Q 今の駐輪場は雨ざらしだ。屋根付きで整備を。

A 駅前広場の基本計画を今年度策定。その中で、整備をすすめたい。

Q 公共施設の考えは。

A 線路側町有地の中で、検討したい。

Q 電線の地中化工事は。

A 今年度箇所は、歩道内に入れることで、通行止めはない予定。

Q 駅前に、高層ビルの下は商業、上は住居という考えは。

A 地権者の合意が必要。

Q 三ヶ根駅前の状況

A 購入予定地の面積は、422・97㎡。

Q 駅前の国道に右折帯を。県に要望中。

人口4万2000人
到達は平成37年

地方創生
特別委員会

8月4日 協議会開催

幸田町まち・ひと・しごと総合戦略による人口ビジョンと次世代産業創出事業を協議。町の将来人口推計では、出生率2.1想定で平成37年に4万2000人、同67年に5万人到達となる。

次世代産業創出事業では、名古屋大学との連携によるプラズマ科学技術を応用した新産業の開発をめざす。

Q 地方創生事業の取り組みPRが弱い。

A 広報こうた・ホームページ・日刊新聞でPR。

Q 各種アンケート結果の反映は。

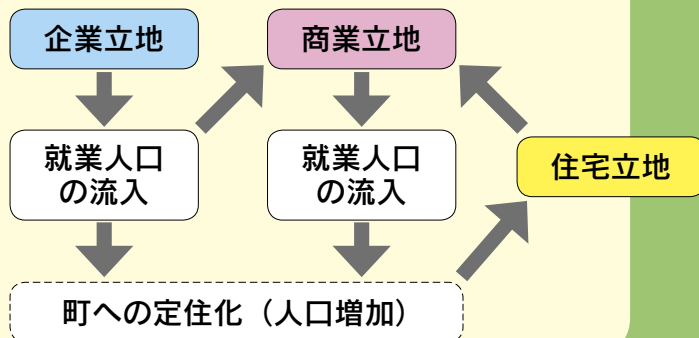
A 庁内11課のプロジェクト編成で、各課で対応。

Q プラズマ技術の見通しは。

A 名古屋大学、豊根村と連携し、来年3月までに試作品を出したい。

緑豊かな自然環境、恵まれた交通インフラ、身近な生活利便施設の充実

区画整理事業等による計画的な市街地整備



総合戦略による町の循環図